

メッセージアウトライン

ローマ11：25～36「神の救いの計画」

[25-26a]「兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思わないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる、ということです」

「奥義」とは神が定められた時まで隠されている秘密のことで、ここでは特に異邦人の救いに関すること。神はこのことを特別にパウロに示された。その内容はイスラエルの不信仰は異邦人の完成、すなわち救われる者の数が満ちる時までであり、その時になれば、イスラエルはみな（神が救いに定められた人々は）救われるということである。

[26b-27]ここはイザヤ59:20~21、27:9からパウロが自由な形で引用したものであり、その内容は神に反逆していたイスラエルが、その罪を悔い改めて神のもとに立ち返る時が来るというものである。

[28-29]「彼らは、福音によれば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びによれば、父祖たちのゆえに、愛されている者なのです。神の賜物と召命とは変わることがありません」

イスラエルは福音に関して言えば異邦人が救われるために神に敵対する者となっているが、神の選びという点では彼らの父祖たちの信仰と契約のゆえに神に愛されている者である。イスラエルの父祖たちと契約を結ばれた神は決して心変わりされるようなお方ではない。「神の賜物」とは神の選びの民としての身分と、それにとまなう祝福のこと。

「召命」とは神のみこころに従った召しのこと。神は変わることはないお方であるので、当然、神の賜物と召命も変わらない。それゆえイスラエルにも希望がある。またクリスチャンに対して言うならば、イエス・キリストを信じる信仰によってひとたび救いに入れられ、豊かな恵みをいただくようになった者が、神の心変わりによってそれが取り消しになるということは決してないということである。

[30-31]ここで言われていることは、異邦人たちはかつては神に不従順であったが、現在はイスラエルの不従順のゆえに神のあわれみを受け、救われている。同様にイスラエルも現在不従順であるが、やがて神のあわれみを受ける時が来て、救われるようになるということ。このように神の救いの計画は展開していく。

[32]「なぜなら、神は、すべての人をあわれもうとして、すべての人を不従順のうちに閉じ込められたからです」　　ここは今まで述べられてきたことの結論といえる箇所。救いは何かの行いの結果として受け取る報酬ではなく、神からの一方的な恵みである。神はすべての人をあわれみ、恵みによって救おうとされた。そのため神はイスラエルも異邦人もすべての人を不従順のうちに閉じ込められたのである。

[33-36]パウロはこのような神の絶妙な救いのご計画を知り、その知恵、知識の豊かさを心から賛美する。すべてのことが、神から発し、神によってなり、神に至る。ここに神の根源性、絶対性がある。この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。